

聴覚障害者のコミュニケーション方法

聴覚障害者のコミュニケーション方法には、手話、指文字、読話、補聴器、筆談などの方法があります。

手話



聴覚障害者の生活の中から生み出されてきた言語で、手や体の動きなどでコミュニケーションを取る方法です。同じ表現方法でも、表情や口形、位置や方向、強弱などで意味あいを持たせています。

読話

口の動きや、会話の前後関係から内容を類推する方法です。日本語の場合、同口形異音も多く、読話だけですべてを理解するのは困難です。



筆談



日本語の読み書きができる聴覚障害者に有効な方法ですが、細かいニュアンスが伝わりにくい面があります。

補聴器

聴こえにくさを補うために使用しますが、すべての言葉をはっきりと聞き分けられるわけではありません。



その他、身振り、空間に文字を書く空書、音声を自動で文字に変換する音声認識ソフト、携帯で文字を打ち情報を共有する方法などもあります。

聴覚障害者といっても、一人ひとり、コミュニケーション方法が異なり、手話だけですべての聴覚障害者とコミュニケーションがとれるというわけではありません。実際に、ご本人と接する中で、どのコミュニケーション方法が最適か相談しながら、工夫していくことが大切です。

あいち聴覚障害者センター

〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸1-7-2 桜華会館1階
 FAX:052-221-8663 TEL:052-228-6660
 メールアドレス: aichi.deaf.center@flute.ocn.ne.jp
 ホームページ: <https://www.normanet.ne.jp/~ww100046/>



医療機関従事者の方へ

遠隔手話サービス



▶手話通訳とは

聴覚障害者のコミュニケーション方法の一つとして手話による会話があります。手話通訳者は、手話と音声を使って聴覚障害者と聞こえる方の会話を仲介し、両者の円滑な意思疎通をサポートしています。

▶遠隔手話サービスとは

新型コロナウイルス感染症への感染リスク等があるため手話通訳者が同行できない場合に、専用のタブレット等を利用してオペレーターが手話通訳を提供するシステムです。

※聴覚障害者が手話通訳を希望され、通常行っている対面による手話通訳が困難な場合に限り提供するものです。

実施団体: あいち聴覚障害者センター

遠隔手話サービスの提供について

〈一般的な流れ〉

遠隔手話サービスとは、専用のタブレット等を使って通信を行い、「あいち聴覚障害者センター」にいる手話通訳者から手話通訳を受けるサービスです。新型コロナウイルス感染症の疑いがあり、病院の受診を案内された方などが利用できます。

患者

私、新型コロナウイルスに感染したかも？!



新型コロナウイルスの症状

- 頭痛
- 息切れ、息苦しい（呼吸困難）
- 発熱
- 強いだるさ（倦怠感）
- のどの痛み
- 物を食べているのに味が感じない
- 咳が長く続く
- 食べ物のにおいがわかりにくい



1 お住まいの地域の保健所にFAX等で相談

3 保健所へ返信

了解しました。遠隔手話サービスを希望します。

保健所

お住まいの地域の保健所



2 保健所からFAXで回答

受診が必要です。遠隔手話サービスを希望しますか。

4 受診する病院や日時を案内

受診病院と受診日が決まったのでお知らせします。

※左記は参考例です。

病院

5 病院で診察

熱があって、だるいです

タブレットに向かって手話で話します。



体調はいかがですか

タブレットに向かって声で話します。

受診する病院を調整

遠隔手話サービスの提供

- タブレットは患者から見えやすい位置、手話が映る角度に調節してください。
- タブレットに向かって、いつもよりゆっくりめにはっきりとした声で話してください。患者が手話で話している時は、話し終わるまでしばらくお待ちください。

情報共有

情報提供施設

(あいち聴覚障害者センター)

遠隔手話オペレーターが通訳

体調はいかがですか

聞き取った声を、手話で伝えます。

熱があって、だるいです

手話を読み取り、音声で伝えます。



オペレーター
(手話通訳者)

あいち聴覚障害者センター



遠隔手話サービスの提供準備

